

社会的事象に向き合い、多面的・多角的に捉えながら 考え抜くことで深い学びを実現できる児童の育成

—一人一台端末を効果的に活用した歴史の授業実践を通して—

春日井市立勝川小学校 教諭 陶山 公紀

<研究の概要>

社会科において児童が多面的・多角的に事象を捉え、課題に向き合い、考え抜くことで深く学ぶ力を育成することを目指して構想・実践した研究である。特に、1人1台の端末やそのクラウドを活用することで他者と協働的に学ぶとともに、歴史日記やゲストティーチャーの活用を通じて、異なる視点からも理解を深め、児童が自己の考えを深化させていく歴史の実践である。

<検索用キーワード>

歴史日記 多角的 テキストマイニング 思考ツール クラウド 価値判断

1 主題設定の理由

現在、社会の急速な変化はますます予測が困難となり、一層先行き不透明となる中、私たち一人ひとり、そして社会全体が、答えのない問いにどう立ち向かうのかが問われている。目の前の事象から解決すべき課題を見出し、主体的に考え、多様な立場の者が対話的・協働的に学び、納得解を導き出すことなど、学習指導要領で育成をめざす資質・能力が強く求められている。これまでの中教審答申では、2020年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育」として「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげることが示された。また「学びに向かう力」の育成には、見通しをもって学習し、その過程や達成状況を評価して次の学習につなげるなど、自ら学びを調整できるように指導する必要があると記された。

これらのことから、変化の激しい社会を生きる児童には、課題を解決するために事象を自分事として向き合い粘り強く考え続ける力や、異なる立場から事象を捉えることで理解を深めながら考察する力、学んだ情報をもとに自分の考えを深化させ、よりよい社会のあり方について価値判断する力が必要だと考えた。そこで、研究の主題を『社会的事象に向き合い、多面的・多角的に捉えながら考え抜くことで深い学びを実現できる児童の育成』と設定した。

また、「令和の日本型学校教育」の実現においては、ICTの活用はなくてはならないものである。現在のGIGAスクール構想による一人一台端末や高速通信ネットワークの整備など、児童を取り巻く教育環境も急速に変化している。そこで、現在の状況に合わせた学習環境をいかして、児童が深い学びを実現し、社会認識を深めていけるような授業のあり方について研究をすることにした。

2 研究のねらい

本研究では、社会科学習において、児童が事象を自分事とし、見方・考え方を働かせながら多面的・多角的に捉え、独りよがりではない、自分なりの考えもつことで問題解決しようとする力の獲得をめざす。また、社会科においては、社会のしくみを理解するとどまらず、よりよい社会を創造する力を育てることも深い学びの実現に必要である。歴史学習においても現在の社会につながる価値を見出し、よりよい社会や自己の生き方に結び付けて適用できることを考えることにも取り組みたい。

3 研究の構想

(1) めざす児童像

社会的事象に向き合い、多面的・多角的に捉えながら考え抜くことを通して考えを深め、よりよい社会のあり方について価値判断できる児童

(2) めざす児童像に迫るために

めざす児童像に迫るために、次の能力を育むことが必要であると考えた(資料1)。

向き合い考え抜く力	事象を自分事とし、答えのない課題について追究し続ける力
多角的思考力	1つの事象を異なる立場から捉える力
価値判断力	根拠にもとづいて多くの人が共感できる結論を考え、よりよい社会のあり方について判断する力

【資料1 めざす児童像に迫るために育む能力】

(3) 能力を育むための手立て

① 切実感ある課題の設定とゲストティーチャーの活用

- ・身近な事象を教材化し親近性を高めた上で、答えを一つに絞れないような切実感ある課題を設定することで自分事として向き合い、自分なりの答えを導き出すことができると考える。
- ・ゲストティーチャーを活用し、専門知識をもった方に出会い、新しい視点からの知識を獲得したり疑問を解決したりすることで学びを深めることができると考える。

② 多角的に事象を捉える「歴史日記」の活用

- ・単元を通して、身分の違う立場で歴史日記を書き続けることで、事象を多角的に捉える力が育まれると考える。
- ・当時の人物になりきって日記を綴ることで知識面・情意面からの思考をすることが可能になり、当時の出来事や課題を自分事として追究できると考える。

③ 一人一台端末の活用

- ・テキストマイニングを使って各時間で整理した内容を繰り返しアウトプットする機会を設けることで、多面的な時代観を獲得し、理解を深めることができると考える。
- ・どのような時代かを繰り返し考えた内容や歴史日記、課題への意見を、クラウドを活用して他者参照できる環境にすることで、他者の考えに触れ理解を深めたり、考えを深化させたりすることができると考える。
- ・一人一台端末を用いて協働的に情報収集したり、整理・分析を繰り返したりすることで、必要な情報を抜き出し、活用する力が育まれると考える。

④ 意見形成や情報の整理を支えるための思考ツールの活用

- ・スケールチャートを活用することで、自分の考えを表現しやすくなるとともに、繰り返し課題への判断がしやすくなると考える。
- ・追究課題への意見形成では、思考ツールを用いることで、知識を関連付けた、構造的な意見形成をすることができ、考え抜く力を高めることができると考える。

⑤ 結論を出す場の設定

- ・追究課題に対し、独りよがりではなく、根拠にもとづいて多くの人が納得できる結論を考える場を複数回設定することで、価値判断する力が育まれると考える。
- ・歴史学習から現代でも適用できる価値を見つけ出す学習活動を設定することで、よりよい社会のあり方について考え、価値判断力を育むことができると考える。

(4) 能力を育むための手立ての検証について

ア 抽出児童の設定

抽出児童を設定し、学習状況や変容を追うことで成果を検証する（資料2）。

抽出児童A	学習に意欲的な児童。様々な角度から考えることができる児童。
抽出児童B	社会科に対して暗記科目であると認識し苦手・嫌いという意識をもっていたり、調べることが好きではないと考えていたりする児童。
抽出児童C	自分の意思が強く、一面的な思考をしまうことの多い児童。答えのない課題に取り組むことが苦手な児童。

【資料2 抽出児童】

イ 定性的観察

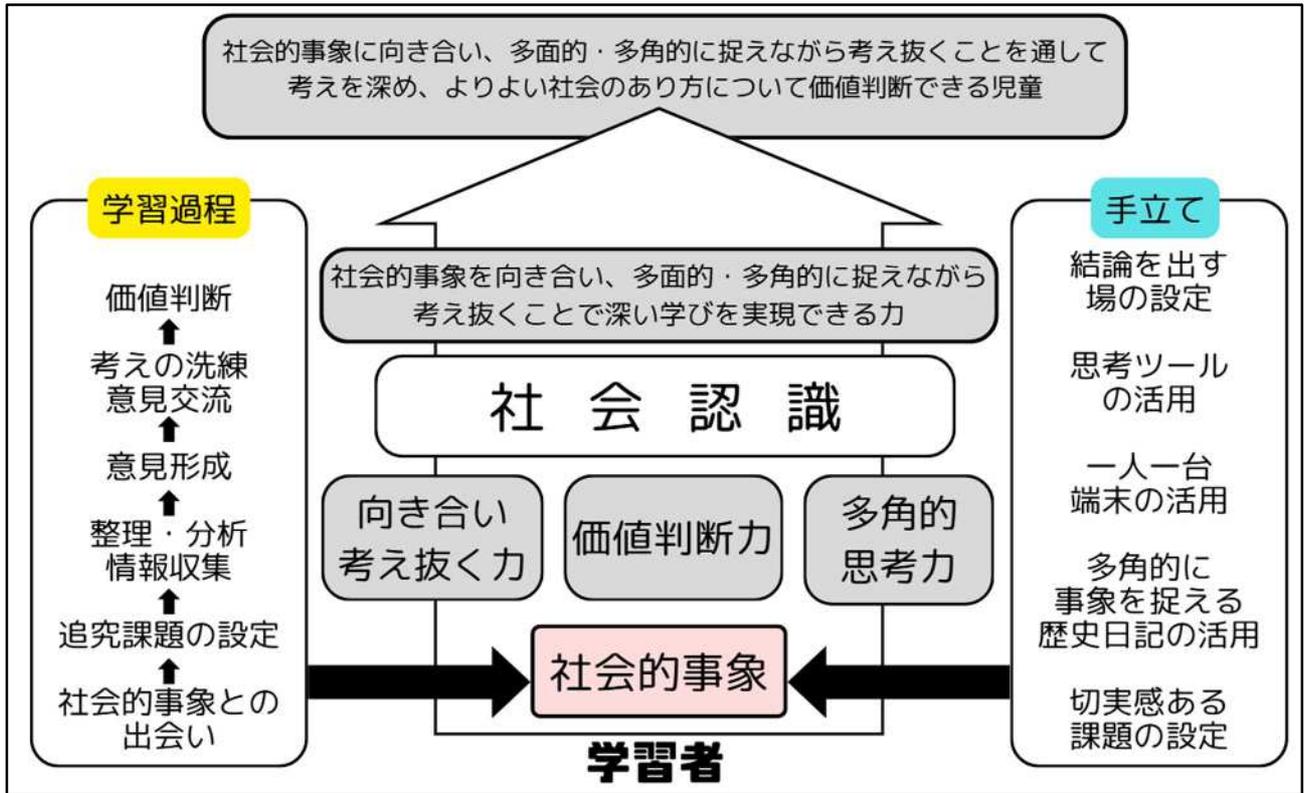
児童の発言や学習に取り組む様子から学習状況を観察し、評価する。

ウ 実践前後の社会科アンケート

研究の前後で実施し、児童の評価理由に注目することで研究の成果を検証する。

(5) 研究の構想図

構想図にもとづいて研究実践に取り組むことにした(資料3)。



【資料3 研究構想図】

4 研究の実際(実践例)

(1) 単元名 仏教の力で国を治める奈良時代ー時代を生き抜いた先人に学ぼうー

(2) 単元の目標

- ア 農民の生活や聖武天皇、行基の働きに着目して、大仏建立とそれに込められた願いを追究したり、学習課題を解決したりする活動を通して、奈良時代への理解を深めることができる。
- イ 奈良時代や大仏建立の意義を多面的・多角的にとらえ、大仏建立の価値を考察し意見形成することができる。
- ウ よりよい社会のあり方について考えることや、現在の社会にもつながる価値を見出しながら学習することを通して、社会に主体的にかかわろうとする意識を高めることができる。

(3) 授業展開(9時間完了)

次のように授業展開を設定した(資料4)。

時	児童の学習活動
1	<p>奈良時代はどのような時代だったのか調べよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○奈良時代の主な出来事や飛鳥時代と奈良時代の都の比較、農民に課された税制度について調べる。 ○奈良時代がどのような時代であったのかを整理し、農民の立場になりきって歴史日記を書く。
2	<p>奈良時代の農民は、どのようなくらしをしていたのか調べよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○農民のくらしについて、貴族のくらしと比較しながら調べる。 ○奈良時代の農民のくらしの様子を整理し、農民の立場で歴史日記を書く。
3	<p>聖武天皇の大仏づくりを調べ、学習課題を設定しよう</p>

	<p>○大仏づくりの特徴を調べ、大仏づくりについて1回目の意見形成をし、意見交流をする。</p> <p>○大仏づくりに関係する人物を知り、学習課題を設定する。</p> <p>○聖武天皇への思いをテーマに農民の立場で歴史日記を書く。</p>
4	<p>聖武天皇の人物像や業績について調べよう</p> <p>○聖武天皇の業績について調べ、どのような国をめざしていたのか調べる。</p> <p>○聖武天皇の時代はどのような時代であったのかを整理し、聖武天皇をテーマに農民の立場で歴史日記を書く。</p>
5	<p>行基の人物像や業績について調べよう</p> <p>○行基の生い立ちや業績を調べ、どのような願いをもっていたのか話し合う。</p> <p>○行基にとって、奈良時代はどのような時代であったのかを整理し、行基をテーマに農民の立場で歴史日記を書く。</p>
6	<p>行基が大仏づくりに参加した理由を考えよう</p> <p>○聖武天皇の大仏づくりへの願いを調べ、行基とのつながりを見出す。</p> <p>○行基が大仏づくりに参加した理由を考え、意見交流する。</p>
7	<p>仏教への疑問を解決しよう</p> <p>○ゲストティーチャー(市内寺院の住職)から話を聞き、疑問を解決する。</p> <p>○仏教に対する当時の人々の捉え方を話し合い、この時代の仏教の価値について農民の立場で歴史日記を書く。</p>
8	<p>これまでの学習を振り返り、学習課題について考えよう</p> <p>○大仏づくりがどのようなもので、誰のためであったのかを考え、整理する。</p> <p>○学習課題について2回目の意見形成をして、意見交流をする。</p>
9	<p>よりよい社会のために奈良時代から学べることを考えよう</p> <p>○よりよい社会の実現や自分の生き方に参考にできることを考え、共有する。</p> <p>○単元の振り返りとして農民の立場で歴史日記を書く。</p>

【資料4 授業展開】

(4) 授業実践の記録および資料

〈第1時〉奈良時代はどのような時代だったのか調べよう

まずは、奈良時代に注目するために市内にある723年創建の円福寺を紹介した(資料5)。調べると奈良時代のものであることがわかった。次に、飛鳥時代と奈良時代の都を比較・分析する中で「天皇中心の国づくり」をすすめた時代であると気付いた。しかし、背景には農民の苦しい実態があることがわかると「都の人にとってはうれしい」「農民にとっては残酷だ」と立場によって異なる意見がでた。その後、奈良時代について表計算ソフトに整理し、全体で共有した(資料6)。さらに当時の農民の立場で歴史日記を書いた。「農民はどんな生活をしていただろう」という疑問の声があがったので調べていくことにした。



【資料5 円福寺】

【奈良時代ってどんな時代?】

7	8
<ul style="list-style-type: none"> ・天皇中心の政治が行われていた時代 ・平城京という都がつくられた時代 ・疫病が流行し、多くの人々が亡くなった時代 ・自然災害が多く、飢饉が何度も起きた時代 ・お寺が多く造られた時代 ・九州や貴族で反乱が起きた時代 ・天皇がすくく権力をもっていた ・民が苦しかった 	<ul style="list-style-type: none"> ・天皇が自分勝手(自己中心)なことをしていた時代 ・聖徳太子が望んだ時代 ・天皇がおもちゃだった時代 ・疫病が流行していた時代 ・天皇がすくく権力を持っていた時代 ・九州や貴族の反乱が起きた時代 ・自然災害が多かった時代 ・お寺がたくさん建てられた時代 ・奈良に都が移る時代 ・平城京ができた時代 ・農民にひどい命令をする天皇がいた時代

【資料6 児童が獲得した時代観】

〈第2時〉奈良時代の農民は、どのようなくらしをしていたのか調べよう

前時に各自が獲得した時代観をテキストマイニングした資料を提示し(資料7)、奈良時代がどのような時代であったかを説明し合った。その後、当時の農民と貴族の生活の様子を比較しながら調べてアプリに整理した(資料8)。資料から当時の農民の苦しい生活を児童の多くは

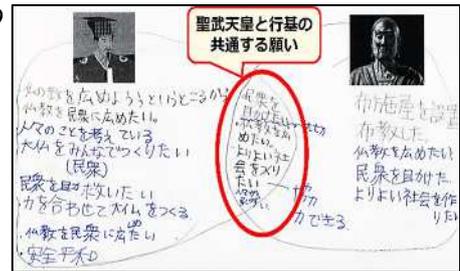


【資料7 第1時の時代観】

を作ってくれたらいい。前はすごく遠くにある橋まで行かないと行けなかったけれどいまは橋のおかげですぐに行ける。やっぱり仏様のような人だ。

【第6時】行基が大仏づくりに参加した理由を考えよう

聖武天皇の大仏づくりへの願いを調べ、行基の思いも併せてペン図に整理した（資料19）。すると天皇と行基には「仏教を広めよりよい社会にしたい」「社会を安定させ、民衆を助けたい」など願いに共通点があることに気付いた。行基が大仏づくりに参加した理由を考えると以下の意見があり行基の行動に納得していた（資料20）。

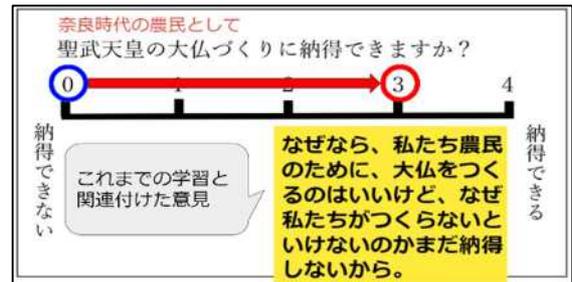
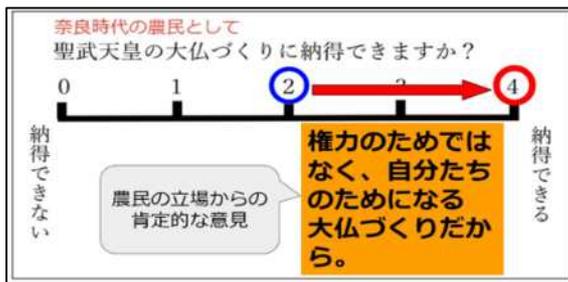


【資料19 聖武天皇と行基の比較】

【資料20 児童の意見】

- ・聖武天皇が大仏をつくるのは、民衆のためだという願いがあったから。
- ・社会を安定させたいという、同じ願いをもっていただけから。
- ・大仏づくりが、仏教を広めることになり、よりよい社会にしたいと思う気持ちが共通していたから。

農民として大仏づくりへの納得度をスケールチャートで判断した。児童Aからは「権力のためではなく民衆のことを考えているから納得できる」、児童Bからは「私たちがつくことに納得できない」という意見がでた（資料21）。本時で学んだことをこれまでの学習と関連付けながら考える様子が見られた。



【資料21 児童A（左）と児童B（右）のスケールチャート】

その後、聖武天皇と行基をつなげたものについて話し合うと「仏教」という発言があった。仏教が現在でも残っていることや当時は国の安定のために大切にされたことを確認すると「仏教はすごい」と発言があった。しかし、仏教の影響力に驚きながらも、重要視された理由については、はっきりとわからない様子だった。そこで、仏教に疑問はないかと問うと、多くの疑問がでた。「お坊さんに聞けばわかる」と発言があったので市内の住職を招いて直接聞いてみることにした。

【第7時】仏教への疑問を解決しよう

ゲストティーチャーの住職に仏教の価値や、なぜ当時の日本で受け入れられたのか、また現在でも信仰されている理由などを聞き、疑問を解決した（資料22）。その後、当時の人々にとっての仏教の存在価値について考えると「人々の心を安心させ不安を取り除くもの」「当時の人が頼ったもの」「みんなが一つになれるもの」などの意見がでた（資料23）。



【資料22 住職さんの出前授業】

【資料23 歴史日記 『奈良時代の仏教の価値』】

- ・仏教は民衆の不安を取り除き、民衆のためになるからよい。疫病のときも民衆の不安が募っていたけれど、仏教のおかげでくらしやすい社会になったから。
- ・天皇が仏教の力を使ったのは、民衆に大きな影響をあたえて、国をまとめることができると思ったから。

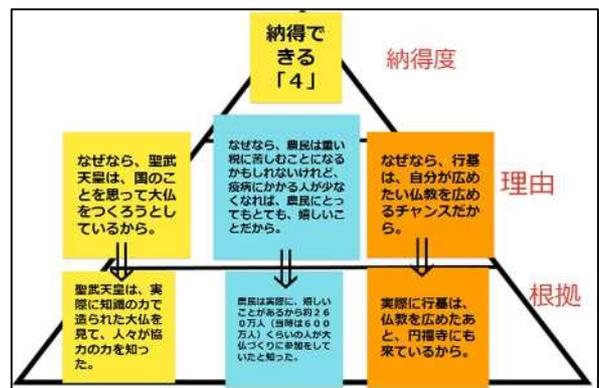
〈第8時〉これまでの学習を振り返り、学習課題について考えよう

これまでの学習から、大仏づくりは誰のためのものかを考えて整理すると以下のような意見がでた（資料24）。多角的な視点から事象を捉えることで、見方が多様であることに気付いた児童は結果的にどの人物の視点から見ても、大仏の建立が国全体のためになっておりよりよい国づくりのための事業であったことに納得した。

【資料24 『大仏づくりは誰のためのものか』に対する意見】			
農民のため	聖武天皇のため	行基のため	国全体のため
<ul style="list-style-type: none"> ・ 農民を災害や病気から守るためにつくられたから。 ・ 大仏は聖武天皇が農民のためになると思ってつくったものだから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 仏教は国を治めるきっかけだったから。 ・ 政治がうまくいかなかったとき、行基の協力もあり人々を一つにできるチャンスにつながったから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大仏づくりは国を安定させ、人々を救おうとしているものだから。 ・ 大仏づくりを通して仏教を広めることにつながったから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ どの人物の視点から見ても、その人自身のためにもなっているから。 ・ 国中に仏教を広め、安定させるためにつくったものだから。

続いて、学習課題について2回目の意見形成をし、意見を交流した（資料25）。多くの児童が、大仏づくりに納得できる評価をした。

以下の（資料26）ように意見を整理してみると、児童Aは「大仏づくりは農民のためだから納得できる」と考えた。一方、児童Bは、納得できるとしながらも「大仏づくりによって農民の負担がより大きくなる」と考え、農民の状況を憂いた思考をした。大仏づくりについて多面的・多角的に学んだことで、類似する立場であっても認識の違いが見られた。



【資料25 2回目の意見形成（児童C）】

また、児童Cは、「農民がかわいそう」と悲観する意見をもっていたが、単元末にはどの立場の人物にもメリットがあると考えを練り直した。評価が変わった理由を問うと「当時の人になりきって学んだから」と発言し、聖武天皇の政治に理解を示した。

【資料26 課題への考えの変容(納得度は0～4の5段階で判断)】			
	児童A	児童B	児童C
1回目の意見 (第3時)	<p>納得度【2】</p> <p>疫病が流行っていて、天皇は、それを流行らせたくないし、治したいと思っていたかもしれないから。農民から集めた税を、自分勝手なことに使っているから。</p>	<p>納得度【1】</p> <p>農民が聖武天皇のためにつくる理由が、わからないから。全国各地の貴重な銅や金を大仏ではなく、他のことに使ってほしいから。農民の生活が苦しいのに自分勝手だと思うから。</p>	<p>納得度【0】</p> <p>農民が可哀想だから。たくさんのお金や材料がかかるから。一人の思いに、みんなを巻き込んでいるから。自分勝手すぎる。</p>
2回目の意見 (第8時)	<p>納得度【4】</p> <p>大仏づくりは、農民にとって安全にくらいしたい自分たちのためのものだから。行基にとって、思いが聖武天皇と同じだったから。農民のためにもなるから。天皇にとって、国を安定させたり、国民を大切にしたりするものだから。</p>	<p>納得度【3】</p> <p>行基にとって、仏教を広めることができ、人々を助けることにもつながるものだから。大仏をつくることで、農民はより重い税に苦しめられることになるから大変。聖武天皇も行基も、よりよい社会にしようと思っていたから。</p>	<p>納得度【4】</p> <p>聖武天皇は、国のごことを思って大仏をつくろうとしているから。農民は重い税に苦しむことになるかもしれないけれど、疫病にかかる人が少なくなれば農民にとってうれしいことだから。行基にとっては、仏教を広めるチャンスだから。</p>

〈第9時〉よりよい社会のために奈良時代から学べることを考えよう

これまでの学習を参考にして、よりよい社会の実現のために、奈良時代やその時代の人物から学ぶべきことを考え共有すると、以下のような意見がでた（資料27）。

【資料27 『奈良時代や生き抜いた人物をから学ぶべきこと』を考えた意見のまとめ】			
奈良時代から	聖武天皇から	行基から	農民から
<ul style="list-style-type: none"> ・仏教だけに頼らないで国や人々を守れる存在をつくる。 ・善行の大切さ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国をよりよくするために一番に国の事を考える。 ・政治の重要性。 	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなで協力する。 ・国民の事を考える。 ・弾圧されても国をよくするために動く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国のために自分にできることをする。 ・よりよい国にするために税を納める。

その後、これからの社会や自分に生かせることを考えた。児童からは、以下の意見があがった（資料28）。

【資料28 児童の意見】
<ul style="list-style-type: none"> ・奈良時代の農民のように協力し助け合うようにしたい。例えば、通学班の仲間で協力して安全に登校すること。また、行基のような優しい心を持ち相手に優しくしたい。 ・聖武天皇の姿から、人を思い、責任をもつ、そして、今ある財力を考えて行動していくことが大切。社会のリーダー(総理)などがこのような思いをもつとよいと思う。

最後に農民の立場で、奈良時代を振り返る歴史日記を書きまとめとした。（資料29）。

【資料29 歴史日記】
<ul style="list-style-type: none"> ・奈良時代は大変なこともあったが、天皇が聖武天皇でよかった。聖武天皇だけだと国がだめになると思ったが、行基と協力したからこそ大変な時代を乗り越えられた。 ・重い税を払うだけでも生きていくのがやっとなのに、聖武天皇が農民に大仏づくりをさせるなんてひどいと思った。だけど、聖武天皇が、みんなの幸せや安全を祈って、大仏をつくらうとしていることを知ったから大仏づくりには、まあまあ賛成だ。

5 研究の考察（成果と課題）

（1）成果

ア 手立ての有効性について

手立て①について

身近な円福寺を教材化し、児童の納得感のずれから切実感ある課題を設定したことで自分なりの答えを導き出そうとする姿が見られた。また、ゲストティーチャーを招いて児童の疑問を解決する機会を設けたことで、事象に関心をもって向き合い、追究し続けることができた。

手立て②について

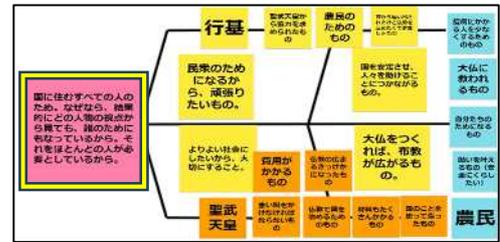
歴史日記を農民の立場から書き続けたことで、どの時間においても多角的に事象を捉えたり、人物に寄り添い思考したりすることができた。自分のことのように考え、理解を深めることができた。児童Bは、以下のように日記に表現した（資料30）。

【資料30 児童Bの歴史日記】	
第3時の歴史日記	今日は、ほんとに疲れた。毎日こんな生活をするのが嫌・・・辛い。どんな生活かは、毎日玄米、青菜の汁、塩を食べているよ。しかも、それプラス大仏をつくれって言われる。本当に、ひどいんだけど。自分でつくれよ！天皇は自分勝手だな。
単元最後の歴史日記	最初、聖武天皇は、ひどすぎると思っていたけど、実はいい人だったとか。あのすごく優しい行基が聖武天皇と協力したことに一番ビックリしたよ。私は奈良時代に生まれて来て最悪だったなあ～と思うよ！だって、農民最悪だもん。大仏づくりに、重い税、質素なご飯で本当に最悪だよ！もう少しいい時代に生まれたかった。

児童Bは、単元を通して農民の苦しい現状を意識しながら学習した。一つの事象を為政者である聖武天皇側からだけでなく、被為政者である農民の立場からも繰り返し考えたことで、一面的ではない深い考察をすることができたと評価できる。

手立て③について

テキストマイニングを使って共有する機会を設けたことで、奈良時代を多面的に捉え、時代観を醸成することができた。また、クラウドを活用したことで、協働的に学習でき、多面的・多角的に捉えることにつながった（資料 31）。



【資料 31 児童Aが整理したポーン図】

手立て④について

スケールチャート（7 ページ・資料21）を用いて、追究課題に対する納得度を繰り返し判断できたことで、単元を通して考察を深め考え抜くことができた。また、イメージマップ（5 ページ・資料11）やベン図（7 ページ・資料19）を用いたことで、比較して共通点に気付いたり、多面的な見方ができたりと様々な思考ツールを効果的に使うことで学びを深めることができた。また2回目の意見形成では、ピラミッドチャート図を用いたことで、考えが整理され、根拠にもとづいた意見形成をすることができた（8 ページ資料25）。

手立て⑤について

単元を貫いた追究課題について結論を出すために、考えをまとめる場を複数回設定したことで、考えを更新し続け、自己調整しながら学習を進めることができ、結果的に、自分なりの考え（結論）を練り上げることができた（8 ページ資料 26）。

また、歴史学習から現代でも生かせる生き方や考え方をを見つけ出す学習活動を設定したことで、よりより社会のあり方について価値判断することや歴史を学ぶ意味に気付くことができた（9 ページ資料 28）。

イ 実践前後のアンケート

単元の最初と最後に社会科アンケートを実施した。実践後は、「好き・どちらかと言えば好き」が、全体の 91.7%（実践前 89.4%）であった。評価した理由について問うと、以下の意見がでた（資料 32）。

【資料 32 実践前後に実施した社会科アンケートの結果】	
評価の理由【実践前】	評価の理由【実践後】
<input type="radio"/> 社会がどのようなしくみかを理解することができる。 <input type="radio"/> 覚えることや書くことが多い。 <input checked="" type="radio"/> 内容が多くて、頭がごちゃごちゃになるから嫌い。	<input type="radio"/> なりきって学ぶことで、昔の人の気持ちを考えることができた。 <input type="radio"/> 次の時代でも歴史上の人物の生き方を自分に生せるようにしたい。 <input type="radio"/> 自分の意見をもてるようになった。

[・ ・ ・好き・どちらかと言えば好き ・ ・ ・どちらかと言えば嫌い・嫌い]

児童Cは、社会科が「嫌い」と判断した。ただ、振り返りには「その時代の人になりきって考えることでその時代を理解したい。次の時代も色々な視点から時代を見るようにしたい。社会が好きになるように学んだことを生かしたい。」と記述した。評価理由や児童の振り返りからも、社会科への向き合い方や学び方が身に付いてきたと評価でき、手立ては有効だったと考える。そして、実践を通して「向き合い考え抜く力」「多角的思考力」「価値判断力」の3つの力を育むことができたと言える。

(2) 課題

学習過程において、児童が自ら選択し、意思決定をして学びを進める場面が少なかった。教師が準備をしすぎることで、児童の能動的な学びの場面を減らす場合もあると感じた。また、検証方法のアンケートについては、評価理由に注目するため簡易的にしたが、手立てに沿った項目にすることで、より客観的な検証を行うことができたと考えている。今回の研究結果を踏まえ、今後もよりよい社会科授業のあり方を模索したい。

参考文献一覧

- ・実践！社会科授業のユニバーサルデザイン 村田辰明 東洋館 2019年
- ・スペシャリスト直伝 社会科授業成功の極意 佐藤正寿 明治図書 2011年
- ・小学校 新学習指導要領社会の授業づくり 澤井陽介 明治図書 2018年
- ・深い学びで生かす 思考ツール 田村学 黒上晴天 三田大樹 小学館 2017年
- ・円福寺遺芳 小島廣次 長 正統 勝獄山円福寺 長純潤 1984年